

男女共同参画社会とは、男女が互いに尊重し、責任を分かち合いながら、ともに心豊かに歩む社会のことです。その実現のためには性別にとらわれず、一人ひとりが個性と能力を発揮できる場を作っていくことが大切です。この作品集が、自身の生活や考え方をふり返り、男女共同参画に向けた一歩を踏み出すきっかけになることを願って、入賞・入選作品と投句者の一言コメントを掲載します。

最優秀賞

共稼ぎ家事と育児も分けあって

中西英生（大阪府摂津市）

最近、共稼ぎの夫婦が多い中、ともすれば妻に家事育児が押し付けられがち。家事育児どちらも公平にしてこそ、より良い夫婦生活が続くのでは。

《選者からのコメント》

男女共同参画の原点を詠んだ川柳ですね。男は仕事、女は家事育児と言われていた時代は終わり、女性も社会に出て活躍している中、旧態依然として家事は女性というのは解せません。いつも心に留めておきたい一句です。

優秀賞

決めつけが奪う男女の可能性

松永智文（愛知県清須市）

男だから女だからと決めつけることで、もしかすると大きなチャンスを無駄にしているかもしれません。

《選者からのコメント》

決めつけは、どうしても否定的になってしまいます。女性でもパイロットに適した人もいれば、男性でもメークの達人もいます。男性、女性とひとくりにしないで、個々の可能性を育むことのできる社会でありたいですね。

優秀賞

好きな人あなたでなくて自分です

竹田雅次郎（大阪府摂津市）

男女共同参画の出発点は、誰よりも自分を好きになることだと思います。そうすれば、性別にかかわらず誰とでも、ごく自然体で向き合えること間違いなし。あなたは2番目！

《選者からのコメント》

一見、自分勝手ようですが、決してそうではないのです。自分を好きになる事は生き方の基本。自分を含めてそれぞれの個を思いやり尊重することが差別のない生き方に繋がるという人間としての原点を学ばせて頂きました。

優秀賞

精一杯自分らしさで年重ね

子育て支援「Pamoja」
(男女共同参画推進団体)

女として生まれ、家庭や子育てに職業人として様々なことを経験してきました。振り返れば「女だから」と言う言葉に心が揺れることもありましたが、男性・女性に関わらず、自分としてどうしたいかを思いながら歩むことができたことに感謝できる「今」があります。

《選者からのコメント》

母であり女性であることを肯定した上での自分らしい生き方。「精一杯」というフレーズに信念を持ちながらも気負わないで年を重ねてきた優しさと自信が匂います。たまには自分らしさについて考えてみるのも必要ですね。

市長賞

議長賞

家事分担文句言わずに「ありがとう」

自由を楽しむパステル
(男女共同参画推進団体)

最近家事を分担する夫婦が多いと思います。お互いにやり方が違うと文句を言いたくなる所を、我慢して先ずは「ありがとう」と言えば、喧嘩にならず円満に過せるのではないのでしょうか。

市民賞

自治会に夫婦仲よくデビューする

長森操 (大阪府摂津市)

今迄仕事一筋の夫婦が同じ考えをもち、人の為、町の為、ひいては自分達が楽しむ為の場をつくった。

チャレンジ賞

2刀流スーツとエプロン使い分け

石畝秀高 (滋賀県高島市)

家ではエプロンを戦闘服として四苦八苦しています。